ＮＰＯ法人あいち惟の森
2019 年度活動報告書

2019 年 4 月 1 日から 2020 年 3 月 31 日まで

１．定款に定めた目的

この法人は、「自分らしく十分に生きる」「学ぶことの本質を味わう」「よりよい未来をともに創る」ことを基本理念としたオルタナティブな学校の設立と運営を中心に、子どもとおとなに対して、自立と共生の力を育むよりよい「学びと共育」の実践・推進を行い、誰もが自分らしく十分に、大切な他者や自然と共に生きることのできる持続可能な社会づくりに寄与することを目的とする。

２．事業実施の概要

＜学校生徒数＞…2019 年 4 月 1 日から生徒数 12 人（うち新入生 2 人）からスタートし、その後 1 年間で中途入学 6 人、中途退休学 5 人があり、延べ 18 人、2020 年度末時点で 13 人の生徒であった。

＜学校教育課程＞…学校の基本理念、子ども観、「教育」の方針、育みたい価値観とチカラ、カリキュラム、時間割は、基本構想に掲げたものをベースに、資料１のとおり行った。

＜学校スタッフ＞…常勤スタッフ3人（校長、担任スタッフ）に加え、多くの外部講師、ファシリテーター、学びサポーター、ボランティアなど多くのおとなが関わることで、カリキュラムの実施・運営を行った。特に、協働団体として、「プロジェクト」は特定非営利活動法人こどもNPOが、「テーマ・スキル学習」は特定非営利活動法人NIED・国際理解教育センターがそれぞれ企画から運営までを担った。

＜年間の主な活動内容＞…通常の時間割外で行った活動の主なものは以下のとおりであった。

・4 月 8 日：入学式
・7 月 30～31 日：子どものまち「森のまち」
・9 月 10 日～10 月 3 日：新 1 年生学校体験・面談期間 → 10 月 18 日：結果通知（6 人合格）
・10 月 1 日：創立記念日 → 10 月 2 日：子ども企画「創立記念パーティー」
・10 月 7 日：中学部入学説明会 →11 月 20 日：中学部考査 →11 月 22 日：結果通知（2 人合格）
・10 月 22 日：ごちゃまぜフェスタブース運営@徳林寺／森のようちえんネットワーク主催
・11 月 10 日：エデュコレ 2019～多様な教育の博覧会～in 東海ブース出展@名城大学
・12 月 8 日：第 1 回オトナの学び場「教育って何？学びを考える」／あいち惟の森広報部
・1 月 16 日：惟の森での子どもとスタッフの関わり研究卒論報告会／インターン（名古屋市立大学学生）
・1 月 25 日：NPO 法人あいち惟の森 会員の集い
・1 月 26 日：教室を飛び出して野外で学ぼうワークショップ／合同会社ラーニングアウトドア共催
・2 月 15 日：第 2 回オトナの学び場「フィンランドの教育」／あいち惟の森広報部
・2 月 29 日：2020 年度入学・在校生徒の保護者向け学校説明会
・3 月 19 日：小学部卒業式

3. 特定非営利活動に係る事業の実施に関する事項

事 業 名	具体的な事業内容	(A) 当該事業の実施日時 (B) 当該事業の実施場所 (C) 従事者の人数	(D) 受益対象者の範囲 (E) 人数	事業費の金額（千円）
(1) **学校の運営事業**	オルタナティブ・スクールあいち惟の森小学部・中学部を開校・運営し、理念・目的を実現する各カリキュラムを実践した。	(A) 開校日の 9:00～15:20 (B) 本校校舎 (C) 40 人程度	(D) 小学生、中学生 (E) 18 人	収益 9,782 費用 9,761
(2) **カリキュラム開発・普及事業**	より良いカリキュラムを追求し、その成果を汎用教材にまとめる。	本年度は実施しなかった。	－	収益 0 費用 0
	汎用教材について、書籍化や教員研修等を行い、その普及を図る。	本年度は実施しなかった。	－	
(3) **子ども・子育て支援事業**	子育て支援のため、放課後の延長利用、特別休暇日の学校開校を行った。	(A)開校日の 16:00～17:00 特別休暇日の 9:00～15:00 (B) 本校校舎 (C) 2 人	(D) 小学生、中学生 (E) 18 人	収益 48 費用 0
	子どもの参画を進める手法の一つである子どものまち「森のまち」を行った。	(A) 7 月 30 日～31 日 (B) 本校校舎 (C) おとな 6 人、生徒 13 人	(D) 小学生、中学生 (E) 37 人	
(4) **人財育成・社会づくり事業**	本校の理念を社会に広めるために、視察・見学の受入を行った。	(A)開校日の 11:00～16:00 (B) あいち惟の森学び舎 (C) 3 人	(D) 保護者、子ども、一般 (E) 91 人	収益 26 費用 0
	本校の理念を社会に広めるために、ウェブサイト、Facebook ページで広報活動を行った。	(A) 4 月 1 日～3 月 31 日 (B) あいち惟の森学び舎等 (C) 2 人	(D) 一般 (E) 不特定多数	
	「オトナの学び場」を2回行った。 ①教育って何? ②フィンランドの教育	(A) ①12 月 8 日 ② 2 月 15 日 (B) 本校校舎 (C) ①9 人、②4 人	(D) 保護者、一般 (E) ①22 人 ②26 人	
	イベントでの発表、ブース展示を 3 回行った。 ①ごちゃまぜフェスタ（展示） ②エデュコレ in 東海（展示）	(A) ①10 月 22 日、徳林寺 (B) ②11 月 10 日、名城大 (C) ①4 人、②4 人	(D) 一般 (E) ①200 人、②200 人	
	「教室を飛び出して野外で学ぼう」ワークショップを、合同会社ラーイングアウトドアと共催した。	(A) 1 月 26 日 (B) 本校校舎、屋外 (C) 2 人	(D) 保護者、一般 (E) 24 人	
	緑区子育て支援ネットワーク連絡会の一員として、その会合へ参加し、イベント活動に参加した。	(A) 随時 (B) 緑区内 (C) 1 人	(D) 緑区民 (E) 不特定多数	
(5) **その他本会の目的達成に必要な事業**	本年度は実施しなかった。	－	－	－

4. 特定非営利活動に係る事業の成果と課題／展望

(1) **学校の運営事業** ソフト・ハード・マネジメント

ミッション	2019 年度の成果	今後の課題／展望
理念達成するカリキュラムの追求・定着化 （川合）	◇本格開校して 1 年間、基本構想に掲げた各カリキュラム要素を具体的に実践し、個人やスタッフ間で振り返り・改善を行うことで、より良い内容・方法を一定程度追求できた。	◇基本構想のカリキュラム内容を実践・具現化したスタッフ個人のノウハウを言語化、文書化し、スタッフ会議で合意形成のうえ、あいち惟の森としてオーソライズする必要がある。 ◇新しく関わるスタッフ間で共有し、許容外の差異がないように定着化を図る必要がある。
育みたい価値観とチカラの点検・評価 （川合）	◇基本理念の具体像の達成度をスタッフで点検・評価し、その時点の成果と課題を把握できた。 ◇育みたい価値観・チカラの達成をどのカリキュラム要素が担うのかの星取り表を作成し、スタッフで確認できた。	◇基本理念の具体像の達成度を高めるための方策を共有し、全てのスタッフで実践する。 ◇生徒ごとの育みたい価値観・チカラの獲得度の点検・評価手法を開発し、前期末、後期末ごとに確認し、活かせるようにする。
中学部卒業後の進路開拓 （佐藤）	◇2019 年度に公立中学校現場で把握できた提案できそうな進路の選択肢の確認ができた。 ◇在籍中学校との連携のスケジュール確認し、提案する準備ができた。 ◇提案できそうな進路先のパンフレットなどを揃えることができた。	◇生徒や保護者への進路先を提案する。 ◇そのために、いつ、どこで、どのように進路相談にのっていくと良いか考える。また、アンケートをとるなどして、保護者やこどものニーズを把握する。 ◇生徒に進路を考えるワークを提案する。
学校環境整備 （大島）	◇敷地内にある木材や石材の集積及び廃材等の処分を行い、校庭として有効利用できる部分を拡張することができた。 ◇樹木の枝切り、草刈りなどを行い、生徒が安全に学べる環境を整備した。	◇敷地境界部分の草刈り、樹木の剪定、水たまりの排水処理などを定期的に行う必要がある。 ◇建物東側の庭を整備する。 ◇保護者等の駐車場所を決定し、明示する。
構想定員の校舎の確保 （青野）	◇こども NPO の事務所移転に伴い、多目的ルームと中学部クラスルームが確保できた。 ◇校舎の確保のために、ウェブサイトや Facebook ページなどで広く募集をかけ、複数の候補地が検討の俎上にあげることができた。	◇2020 年度 4 月の在校生は 21 名の予定。現有校舎では現在の入学希望ペースでの受け入れは困難である。 ◇市街化調整区域等である現有地での増築は条件や課題が多く、定員生徒数確保のためには、早急に新校舎の確保が必要である。
定員生徒数の確保 （川合）	◇2019 年度は、入学 8 人、退学・休学 5 人で、差引 3 人増であった。 ◇小学部、中学部の新 1 年生の募集を行い、小学部 6 人、中学部 2 人を合格とすることができた。	◇小学部新 1 年生は、毎年度 6～7 人入学してもらえるよう募集・広報を行う必要がある。 ◇中途入学については、定員を下回っている学年について募集・広報を行う。 ◇受け入れ基準や手続きについて、考え方を整理する必要がある。

スタッフ・ 外部講師・ サポーター の充実 （川合）	◇常勤スタッフ 3 人を中心に、次の外部講師やサポーターに協力してもらい、カリキュラムの実践ができた。 ・プロジェクト…こどもNPO派遣による 5 人 ・テーマ・スキル学習…NIED・国際理解教育センター派遣の 10 人 ・分野別学習…各分野の外部講師 13 人 ・基礎学習／お絵かき算数…3 人 ・基礎学習／学びサポーター…10 人以上 ・経理スタッフ…こどもNPO派遣による 1 人 ・事務局スタッフ…NIED 派遣による 1 人 ◇主要スタッフの教育力向上のために、箕面こどもの森学園等での見学や研修の費用負担を行った。	◇学校で起きていることを継続して総合的にみる立場の役を、週 5 日フルタイムとする、もしくは引継ぎを過不足なする体制とする必要がある。 ◇こどもNPOと NIED・国際理解教育センターとの関係を維持し、有機的に協働できる体制とする必要がある。 ◇基礎学習や事務局の担う人材を勤務が不安定なボランティアではなく、非常勤スタッフとして採用し、安定化させる必要がある。 ◇多様な分野を多様な人から学ぶために、分野別学習の外部講師を充実させる。 ◇構想時に想定した分野別学習の企画・運営等をコーディネートする人材が不可欠である。 ◇スタッフの教育力向上のため、スタッフ研修制度を作り、予算化する。

(2) **カリキュラム開発・普及事業**

ミッション	2019 年度の成果	今後の課題／展望
理念や方法の 汎用教材化 （川合）	◇まとまった成果はなかった。	◇個人レベルやスタッフ会議にて、理念や方法の汎用教材化につながる検討はしてきているが、具体的なとりまとめを行えていない。 ◇開校後5年を目標に、書籍出版をめざす。
校外での実践 ・教員研修 （川合）	◇実施しなかった。	◇惟の森の理念やカリキュラムを広めるために、校外で実践したり、一条校の教員に対して研修をしたりする。

(3) **子ども・子育て支援事業**

ミッション	2019 年度の成果	今後の課題／展望
放課後の 子育て支援 （青野）	◇放課後（16 時から 17 時）に在校生の預かりを行い、延べ 28 名、31 時間の利用に応えた。 ◇特別休暇日（月休み）に、校舎の一部を開放し、生徒たちが自治により活用した。	◇迎えが 17 時を過ぎる場合があり、スタッフの勤務時間の超過と体制が課題であった。 ◇保護者主体で学童保育事業のニーズアンケートを行なったが、在校生の中ではまとまったニーズは見られなかった。
地域の子ども との関わりづくり （二宮）	◇7 月 30 日 31 日の 2 日間、あいち惟の森を開催地として「こどものまち“森のまち“」を開催し惟の森の生徒が地域の子どもたちとともにイベントの運営を行った。惟の森の前身である Roots の時にも開催しており、あいち惟の森には通っていないが、毎年参加している地域の子どもたちもいる。地域の子どもたちが惟の森を知り、惟の森の生徒が地域の子を知る場になっている。	◇あいち惟の森で開催した「森のまち」は地域の子が参加できたのはイベント前日と当日の 3 日間のみであった。8 日間、地域の子と Roots の生徒が過ごした「こどものまち」と比較すると地域の子どもたちとの深い関わりや主体的な参加には繋がらなかったように思う。夏期期間に長期間関われることが望ましいのだがスタッフ数の不足と学校のキャパシティにより実現できなかった。

(4) **人財育成・社会づくり事業**

ミッション	2019 年度の成果	今後の課題／展望
学校見学・視察の人数・内容の充実 （青野）	◇入学を検討する保護者・子どもは 51 組（うち、中学部 2019 年の入学希望 6 組）あった。そのうち 8 組は定員を満たした学年のため見学に至らなかった。 ◇地域別には名古屋市内が 26 組、ほか大府市、日進市、豊明市、豊田市、蒲郡市、三好市など県内が 16 組、県外（国外）からは 9 組。 ◇また緑区の子ども応援委員会からの問い合わせや紹介は 5 回あった。 ◇視察は 8 件、26 人であった。	◇校舎のキャパシティの点で入学希望者の要望に応えることができず、お断りしていることはとても残念であり、早急に新校舎の目処を立てなければならない。
関連講座・イベントの充実 （二宮）	◇あいち惟の森広報部を立ち上げ、自主企画講座を 2 回、共催講座を 1 回開催した。 ◇スタッフ自主企画講座を学生ボランティアと共に 1 回開催した。 ◇森のようちえんネットワーク主催ごちゃまぜフェスタに参加し、県内のオルタナティブスクールとともにパネルトークに参加した。 ◇上記イベントに加え、多様な教育フェスタエデュコレに参加したことで、あいち惟の森の知名度をアップし、学校見学や視察の増加につなぐことができた。	◇イベント、講座を積極的に開催・参加した一方で、スタッフの疲労を理由にイベントの参加を 2 回（一昨年度は参加した名古屋市立大学のサスティナビリティシンポジウムと緑区の赤ちゃんフェスタ※）見送っている。参加できる協力者を増やす必要がある。 ※赤ちゃんフェスタは、ブース出展は叶わなかったが展示のみ行った。
記録・広報の充実 （二宮）	◇あいち惟の森の Facebook ページ、ウェブサイトのブログを年間で 30 回以上投稿した。 ◇保護者の行動を契機に、朝日新聞社 GLOBE の取材を受けた。（19 年 12 月 30 日配信） ◇子ども発信のブログを作成した。 ◇Facebook ページの購読者数が 1 年間で 341 人増えた。	◇記録や広報の頻度にムラがあるので、定期的な発信を行いたい。 ◇定期的に発信するため、また多様な視点から広報するため広報担当者が複数欲しい。 ◇NPO 会員限定の記録・広報の発信が少ない。
地域やテーマコミュニティとの連携 （川合）	◇地域としては、緑区子育て支援ネットワーク連絡会の一員として、会合および連絡会主催のイベントへの協力を行った。また、地域の福祉作業所に訪問し、交流した。 ◇テーマコミュニティとしては、多様な学びをテーマとする次の組織やイベントに関わった。 ・認定 NPO 法人コクレオの森のサスティナブルな学びプラットフォーム「サスまな」会員登録 ・ごちゃまぜフェスタ（展示） ・多様な学び博覧会デュコレ in 東海（展示）	◇地域に開かれた学校、地域と共にある学校として、名古屋市緑区や近隣都市の市民や団体との連携を深める。 ◇多様な学び、オルタナティブな教育が選択できる社会をめざして、同じ志を持つテーマコミュニティをの連帯・連携を行う。

(5) **その他共通**

ミッション	2019 年度の成果	今後の課題／展望
寄付者募集 （六鹿）	◇寄付募集のチラシ、ウェブサイトに寄付者募集のページを作成した。 ◇今年度は予算を超える寄付が集まった。	◇予算を超える寄付が集まったが、多くは惟の森の関係者や近親者からの志金であった。 ◇特例認定 NPO から、認定 NPO へ移行するには、100 人から 3000 円以上寄付を集める必要があり、今後はより広くの方に惟の森を知ってもらい、支えてもらう必要がある。
助成金獲得 （青野）	◇学校備品や教材の充実をねらい、株式会社デンソーの「はあとふる基金」に申請した。 （結果は、残念ながら2件とも不採用）	◇マッチングできる教育関係の助成事業が少なく、助成金情報の収集が課題である。
認定NPO化 （六鹿）	◇認定 NPO の要件と提出書類を確認し、経理の整備をした。	◇2020 年度から認定申請ができるようになる。今年度中の認定に向けて、申請書の作成・提出をする。

5. 会議の開催に関する事項

（1）総会

ア 定期総会

（ア）開催日時及び場所 2019 年 6 月 8 日 13:15～15:30 YWCA ビル 7 階 名古屋 NGO センター

（イ）議題 ①2018 年度活動報告（案）及び決算（案）の承認について、②2019 年度活動計画（案）及び予算（案）の承認について

（ウ）出席者数 社員総数 39 人、当日出席 21 人、委任状出席 18 人、合計 39 人

（2）理事会

ア 第1回理事会（各カリキュラム担当合同）

（ア）開催日時及び場所 2019 年 5 月 6 日 17:30～20:45 YWCA ビル 7 階 名古屋 NGO センター

（イ）議題 ①カリキュラム現状と課題共有 （プロジェクト、テーマ・スキル学習、基礎学習、分野別学習）、②課題集約と本日話し合うべき課題の優先順位付け、③課題の原因、課題解決の手立てについての検討

（ウ）出席者数 理事総数 8 人、当日出席 7 人、オブザーバー3 人

イ 第2回理事会

（ア）開催日時及び場所 2019 年 5 月 26 日 13:50～15:30 本校校舎

（イ）議題 ①2018 年度の活動報告（案）および決算（案）について、②2019 年度の活動計画（案）および予算（案）について、③事業報告・計画、決算・予算の各案に関する意見交換、④理事会としてのミッションと役割・担当について

（ウ）出席者数 理事総数 8 人、当日出席 7 人

ウ 第3回理事会

（ア）開催日時及び場所 2019 年 7 月 8 日 17:30～21:30 本校校舎

（イ）議題 ①寄付募集について、②助成金獲得について、③新校舎確保について、④認定 NPO 法人化について、⑤学校環境整備について、⑥進路開拓について

（ウ）出席者数 理事総数 8 人、当日出席 8 人

エ 第4回理事会

（ア）開催日時及び場所 2019 年 9 月 18 日 17:00～21:15 本校校舎

（イ）議題 ①寄付募集について、②助成金獲得について、③新校舎確保について、④認定 NPO 法人化について、⑤学校環境整備について、⑥進路開拓について

（ウ）出席者数 理事総数 8 人、当日出席 8 人

オ 第5回理事会

（ア）開催日時及び場所 2019 年 11 月 22 日 17:00～21:30 本校校舎

（イ）議題 ①短期・長期の経営計画について、②2020 年度の惟の森点検・評価活動の時期と方法について、③今後の理事会の進め方について

（ウ）出席者数 理事総数 8 人、当日出席 8 人

カ 第6回理事会

（ア）開催日時及び場所 2020 年 1 月 19 日 13:00～16:00 本校校舎

（イ）議題 ①学則の承認について、②認定 NPO 法人化に向けた寄付募集について、③スタッフ体制について、④政策提言活動について、⑤1 月 25 日の NPO 会員の集いについて

（ウ）出席者数 理事総数 8 人、当日出席 8 人

キ 第7回理事会

（ア）開催日時及び場所 2020 年 3 月 19 日 17:10～21:00 本校校舎

（イ）議題 ①2019 年度決算見込みについて、②2020 年度収支見通しについて、③認定 NPO 法人化のスケジュールについて、④ツイッター開設について、⑤進路開拓について、⑥助成金について、⑦新校舎建設について

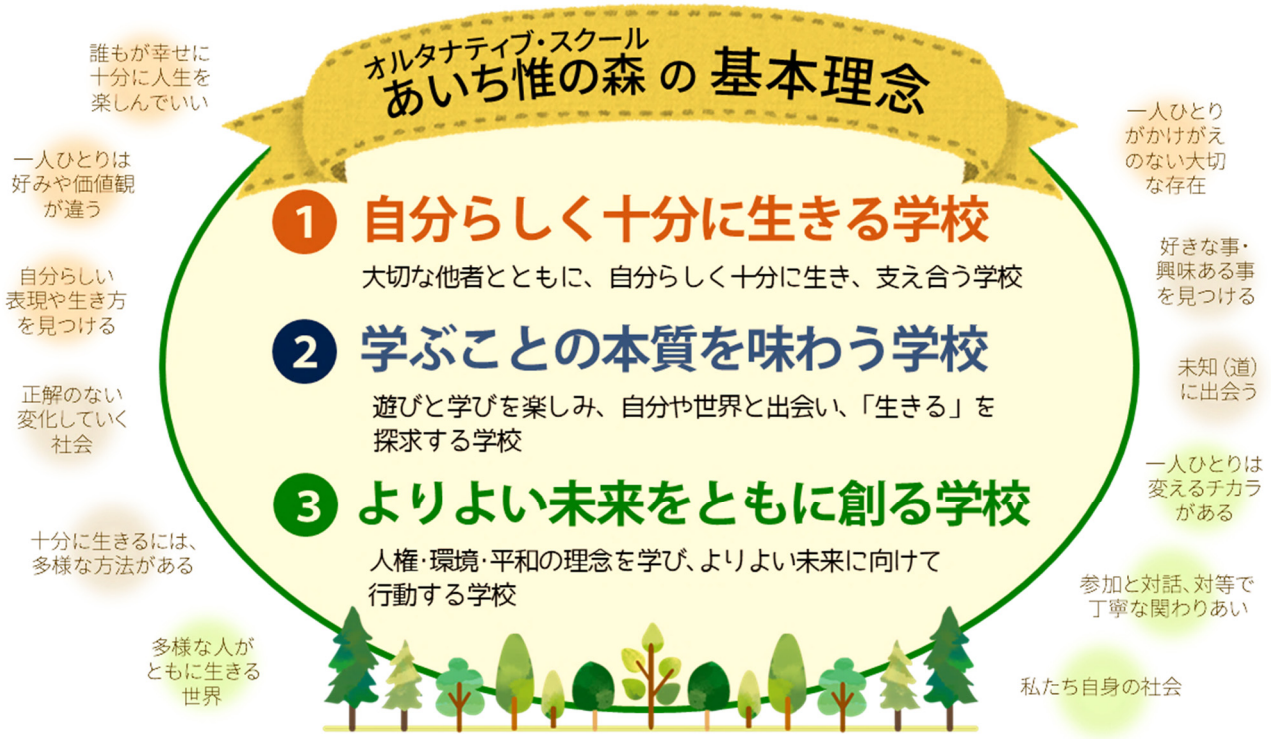
（ウ）出席者数 理事総数 8 人、当日出席 8 人

2019 年 9 月 1 日現在

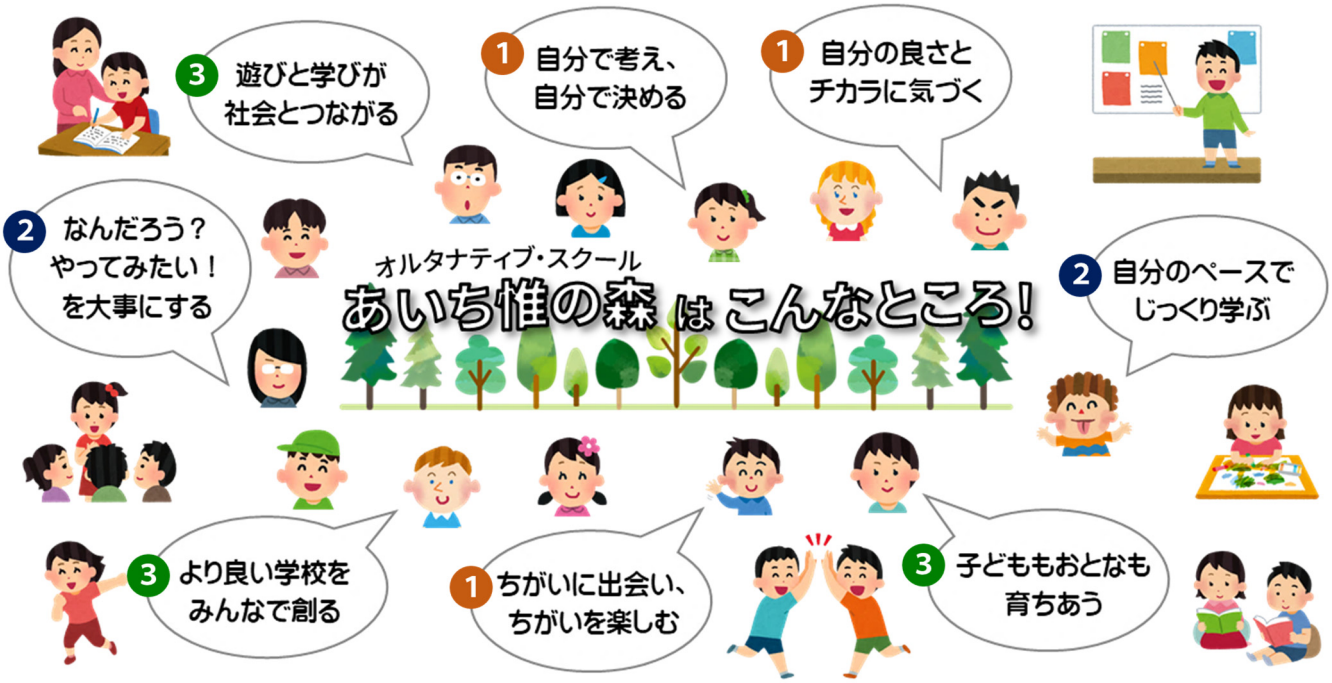
資料1：2019年度の教育課程

1－1. 学校の基本理念

◇ 基本構想で定めた基本理念が実現できる学校をめざし、カリキュラムを計画します。



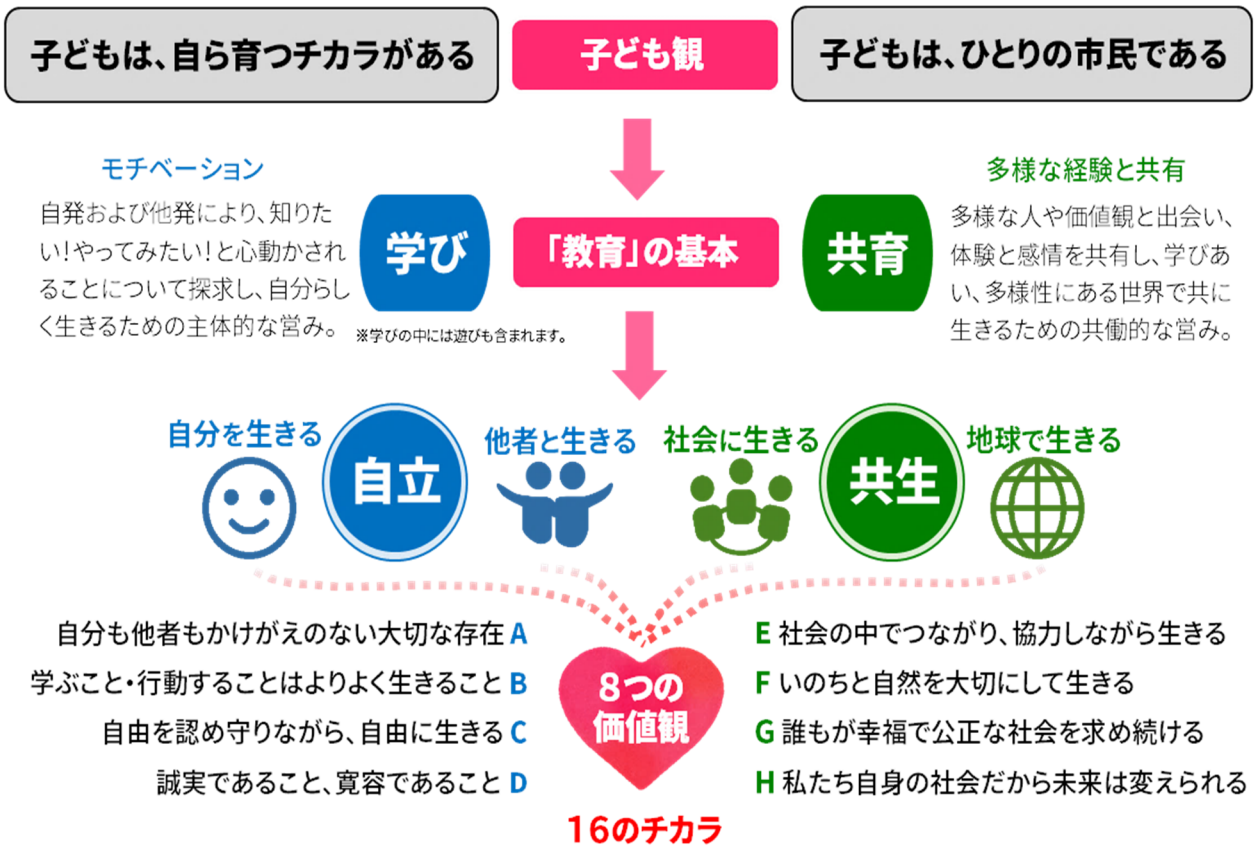
◇ 基本構想を平たく言うと、次のとおりとなります。※番号は主に対応する基本理念。



１－2. 子ども観、「教育」の方針、育みたい価値観とチカラ

◇　「教育」のあり方は、子どもがどんな存在だと考えるか、つまり「子ども観」によって大きく変わる。この学校では、以下のような「子ども観」に立つ。また、子ども観を踏まえ、子ども自身による主体的な「学び」と、子ども同士や子どもと周りのおとなによる「共育」を、「教育」の基本とする。

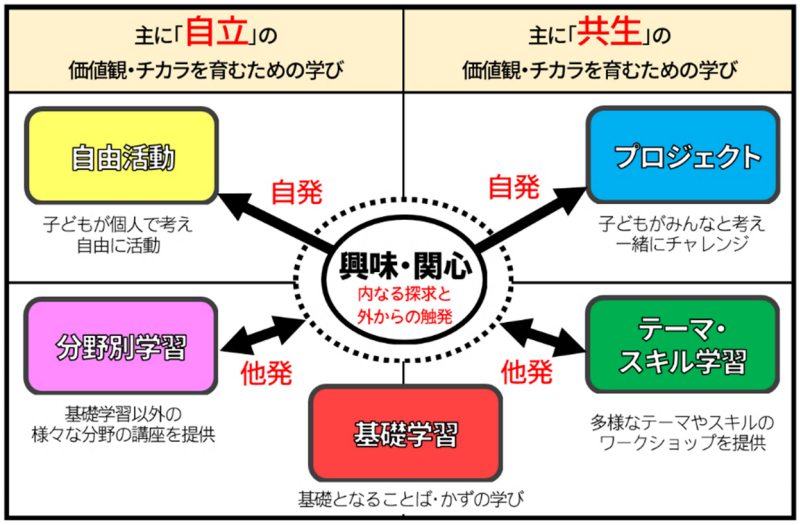
◇ また、中学校卒業時に一人ひとりの子どもたちに育まれているとよいと願う価値観（概念・意識）とチカラ（技術・態度）は、以下のとおり。子どもにはそれぞれ個性や持ち味があり、もちろん価値観やチカラは一人ひとり多様であってよいものである。 しかし、ここに掲げる価値観とチカラは、学校の基本理念を実現するため重要で、子どもたちの『自立と共生』のチカラを育むために大切であり、どの子どもにも共通して育てていく。



① かけがえのない自分のことを大切にする	⑤ 学び方を学び、主体的に必要な学びを行う	⑨ 社会を構成する市民という意識を持つ	⑬ 環境の多様性・相互依存性・有限性に配慮する
② 自分で考え、感じ、自分のことば等で表現する	⑥ アサーティブに気持ちや考えを伝える	⑩ 様々な場で他者と対話し、合意し、協力しあう	⑭ 情報を多面的・批判的に捉え、公正な判断をする
③ 知りたいことや考えたいことを探求する	⑦ 文化や価値観の多様性を受容する	⑪ 対立は悪くないと考え、対立を建設的に解決する	⑮ 人々の願いにあう新しい価値や変化を創造する
④ 願いを持ち、失敗もOKでチャレンジする	⑧ 他者を思いやり、人権を尊重する	⑫ 自然といのちの尊厳を実感し、大切にする	⑯ 課題の解決や望む未来の 実現のために行動する

1－3. カリキュラム要素（小学部）

◇「基礎学習」、「テーマ・スキル学習」、「プロジェクト」、「分野別学習」、「自由活動」を、カリキュラムの主要５分野と位置づけ、自発と他発の学習を包括的に組み合わせ、「学び」と「共育」を実施する。



◇ 主要５分野を含め、下表の 12 のカリキュラム要素で、全体のカリキュラムを構築する。

カリキュラム要素		概 要
主要５要素	① 基礎学習	学びと共育の基礎となる知識と見方・考え方を育む。小学生は「ことば」（国語）、かず（算数・数学）を自律的に学ぶ。
	② テーマ・スキル学習	人権・環境・多文化理解・共生・平和など、学ぶべき社会的・総合的なテーマを参加と体験を通して学び、わたし・あなた・みんなに関わるスキルを育む。
	③ プロジェクト	子どもの自己選択・自己決定により、目的の達成に向けて仲間とともに計画を立て、地域で様々なことにチャレンジする。主体性、対話と協力のチカラを育む。
	④ 分野別学習	基礎学習以外の学習分野について学び、体験し、追求する。校外に出て様々な分野を視察する。芸術、生活・家庭、音楽、体育、理科、社会等にも関わる学習。
	⑤ 自由活動	一人ひとりの「知りたい！」「やってみたい！」が芽生え、追求するための自由な遊びや自主的な活動の時間として設ける。その内容に応じたサポートを行う。
⑥ 個別学習計画		子どもが１週間の学習計画を主体的に立て、１週間のふりかえりを行う。月期、学期、年度の節目にも目標立てやふりかえりを行う。
⑦ サークルタイム		自分を表現し、知り合い、ふりかえるための時間を毎日の朝と帰る前に確保する。
⑧ シェアリング		各自が学んだことを発表・共有する機会を設ける。
⑨ クラスタイム 全校ミーティング		子どもとスタッフによる学級自治をめざしたクラスタイム、学校自治をめざした全校ミーティングを行う。
⑩ ユースフルタイム		学校の心地よい環境を維持し、よりよくするため、一人ひとりが役割を持ち、毎日少しずつ貢献する。掃除や片付け、修理、花の世話など。
⑪ お昼休み		お昼ご飯を食べる時間とともに、食後に十分に遊んだり、休んだり、自分が自由に使える時間を多く確保する。
⑫ 年間行事		入学式、卒業式、文化祭、運動会、お祭りなど各種催しや修学旅行。子どもたちと一緒に創る毎年恒例の行事。
遊 び		子どもの育ちに欠かせない「遊び」を１日の中（ブレイクタイム、お昼休み等）、１週間の中（自由活動）で、その時間を保障する。

1－4. 時間割（小学部）

◇ 始業は 9:00、終業は 15:20。午前 2 時限、午後 2 時限で構成される。

◇ 「基礎学習」は、月曜日から金曜日まで毎日、1 限 80 分間で行う。

◇ 「テーマ・スキル学習」「プロジェクト」「分野別学習」は、週 1 回決まった曜日の 2～4 限（合計 150 分間＝2 時間 30 分間）で行う。

◇ 個人レベルの週間のふりかえりと翌週の計画を立てるための時間として「個別学習計画」を金曜日 4 限に、クラスレベルの学級自治の時間として「クラスタイム」を火曜日 2 限に、全校レベルの学校自治の時間として「全校ミーティング」を金曜日 2 限に行う。

◇ なお、一人ひとりの学びの成果などを他の生徒の前で発表する時間として、「シェアリング」の時間を随時設ける。

◇ 毎日の始まりと終わりには、表現・対話、ふりかえりの時間としてサークルタイムを 15 分間ずつ設ける。終わりにはユースフルタイムも 15 分間加わる。

◇ 1 週間の中で自由に遊び・活動する時間として、火曜日 3･4 限と金曜日 3 限を設ける。1 日の中では午前中の 1 限の基礎学習で集中した後に、自由に遊び休むことができる 25 分間の「ブレイクタイム」を設ける。また、お昼休みも 70 分間確保し、昼食後に十分に遊び休むことができるようにする。

<table>
<tr><th colspan="2">曜日
時間</th><th>月</th><th>火</th><th>水</th><th>木</th><th>金</th></tr>
<tr><td colspan="2">9:00～9:15 [15]</td><td colspan="5">朝のサークルタイム</td></tr>
<tr><td>1 限</td><td>9:15～10:35
[80]
(途中、小休憩あり)</td><td></td><td colspan="3">基　礎　学　習</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">10:35～11:00 [25]</td><td colspan="5">ブレイクタイム</td></tr>
<tr><td>2 限</td><td>11:00～11:50
[50]</td><td rowspan="4">プロジェクト</td><td>クラスタイム</td><td rowspan="4">分野別学習</td><td rowspan="4">テーマ・スキル学習</td><td>全校
ミーティング</td></tr>
<tr><td colspan="2">11:50～13:00 [70]</td><td rowspan="3">自由活動</td><td>お昼休み</td></tr>
<tr><td>3 限</td><td>13:00～13:50
[50]</td><td>自由活動</td></tr>
<tr><td colspan="2">13:50～14:00 [10]</td><td>小休憩</td></tr>
<tr><td>4 限</td><td>14:00～14:50
[50]</td><td>個別学習計画</td></tr>
<tr><td colspan="2">14:50～15:05 [15]</td><td colspan="5">帰りのサークルタイム</td></tr>
<tr><td colspan="2">15:05～15:20 [15]</td><td colspan="5">ユースフルタイム</td></tr>
</table>